

写真に見る

1115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□19□

# 茶屋、噴水備えた景勝地

写真①は明治30年代の長崎公園の月見茶屋付近。写真②は当時その横に立っていた香港茶屋である。

月見茶屋ができたのは明治18（1885）年とされている。しかし、高島炭坑で技術指導に当たったイギリス人技師フレデリック・ポッターの明治10年代のアルバム（長崎大附属図書館所蔵）の写真③には、月見茶屋の前身とみられる2階建ての茶屋と東屋が写っている。18年に経営者が変わり、建物も現在の1階建てに改築されたようである。

この③の明治10年代の写真の香港茶屋の場所には、②の写真の前身となる1階建ての洗練された香港茶屋が写っている。香港茶屋は明治30年代には諏訪神社の参道の際の洋館で洋食店も開業していた。

明治政府は、近代以前の社寺境内や遊観の場であり、古来日本の風土に見出されてきた景観やその景観と調和した建物な

どを全国から推薦させて、明治6（1873）年の太政官布告6号により、わが国最初となる国立公園を創成した。これにより長崎では諏訪神社に隣接する「諏訪の杜」に諏訪公園（2・9畝）ができた。明治22年に管理が県から市に移譲され、翌年の長崎市制施行に合わせて長崎公園に改称された。

写真②の池の噴水は、わが国の公園装飾用噴水として最古とされるが、

写真では上部が失われている。この噴水は明治11（1878）年出版の「長崎諏訪御社之図」を基に現在上部が復元されている。写真③ではまだ最初の姿が健在である。

この広場を西に下ると丸馬場（写真④）に出る。ここは長崎市のイベント広場であり、明治10（1877）年に勸業博覧会が開催された。左隅には明治34年6月に建てられた剣豪山岡鉄太郎（鉄舟）と籠子田安定（平戸藩士）の記念石碑が見える。丸馬場に残されたたくさんの記念石碑は現在も、散策する人を楽しませている。

（長崎外国語大学長）

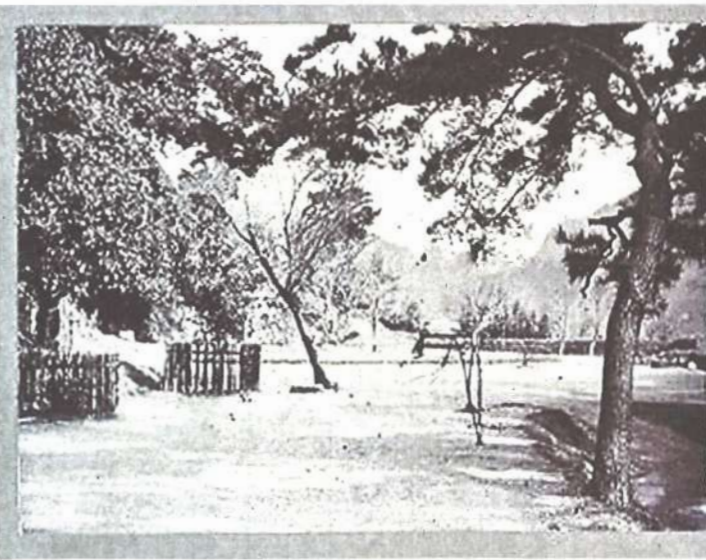
この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大学のホームページ（http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/reccnas/newspaper/）で見ることができます。

長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード



随時掲載します

丸馬場  
長崎新聞  
1911年



③明治10年代の月見茶屋と香港茶屋。フレデリック・ポッターの写真アルバムより（長崎大附属図書館所蔵）



①明治30年代の月見茶屋付近（長崎外国語大所蔵）



②明治30年代の香港茶屋付近（長崎外国語大所蔵）